

令和5年度 学校運営協議会だより 第3号

令和5年11月21日

令和5年度 第3回 学校運営協議会を開催しました

11月16日（木）に今年度3回目となる、学校運営協議会を開催しました。

今回は「地域との連携」をテーマに、委員の皆様に向けて本校の小中学部、高等部の教育活動を紹介し、御意見をいただく機会となりました。また、本校の教育活動をより充実させるための人材の紹介について依頼させていただきました。

それを受け、今回はより具体的に、学校が地域の人材情報を得て活用を促進するためにはどうすべきかについて協議を行いました。また、障害のある方の地域での活動や、それを支える取り組みの実際について、情報共有をしました。

今回の協議や情報共有を経て、本校の学区である小山町、御殿場市、裾野市のそれぞれにおいて、人材バンクのような仕組みがあり、地域において活用が進んでいること、災害時の備えとして、障害のある方の個別支援計画の策定、地域での周知が課題であることなどが分かりました。以下、詳しくご紹介いたしますのでご覧ください。

- ◎ 目的
- ・委員による校内参観を行い、本校や本校の児童生徒への理解を深める（今年度初参加の委員あり）。
 - ・地域における人材活用の仕組みやその実際について情報共有し、学校との連携を図るための方策について検討する。
 - ・地域における障害のある方の活動やそれを支える取り組みについて情報共有し、本校の教育活動との連携の可能性について検討する。

◎ 今年度の学校運営協議会委員

前小山町教育長	天野 文子 様	御殿場市 尾尻区長	塩川 満 様
トヨタ自動車(株)東富士研究所管理部	天野 安明 様	御殿場市役所富士岡支所長	坂上 剛 様
社会福祉法人ステップワン理事長兼施設長	根上 豊子 様	本校PTA本部役員	鈴木 里美 様
御殿場市役所危機管理課	中村 信雄 様		

◎ 当日の様子と内容

コーディネーターをお務めいただいている坂上委員が今回の会も進行してくださいました。限られた時間の中で内容を進めて頂いたり、話題に応じて各委員から意見を伺ったりしていただきました。ありがとうございました。

◎ 校長挨拶

今年度の学校経営計画の共有からスタートした本会から、新型コロナ5類引き下げに伴う感染対策の解除を受け、2学期に入って教育活動が活発化している。地域にかかわる活動としては、先日、高等部が富士岡公園まつりに出店させていただいた。校内では小中学部の修学旅行を無事に終え、次週は高等部の広島への修学旅行を控えている。コロナ禍を経て、学校として子どもたちにどのようなことを学ばせたいか、停止していた教育活動の再開を契機とし、改めて検討する良い機会となっている、との話がありました。

◎ 校内参観

小学部は12/2（土）、中学部、高等部は12/9（土）に御特祭（学習発表会）が予定されていたり、高等部3年生は翌週に修学旅行を控えたりしている中、校内の様子を御参観いただきました。今回は展示や掲示が多かったこともあり、授業の様子だけでなく、子どもたちの作品や学習のまとめについても熱心に御覧いただくことができました。

◎ 協議①「地域の人材情報の共有方法とその活用方法について」

小山町の天野文子委員からは、市の生涯学習課の管轄となる文化連盟についてのご紹介がありました。茶道や習字などを教えることができる方が登録をされており、地域のイベントなどでは編み物や木工などの体験コーナーを設置し、作ったものを持ちかえることができるなど、子どもたちに人気があるとのことでした。人材情報の更新が滞っており、常に最新の情報ではないが、活用可能ではないかとのご紹介をいただきました。

裾野市の鈴木委員からは、裾野市生涯学習センターに人材登録制度があり、その人材活用を市が橋渡しし



てくれること、人材情報が冊子になっていたり、ホームページにも掲載されていたりすることなどをお調べいただき、情報提供していただきました。

御殿場市の中村委員からは同市の市民協働型まちづくり事業について御紹介いただきました。これは市民団体と行政が連携して課題解決を図る取り組みで、例えば、ママ（母親）の目線で防災を捉え、備える講座を行ったり、HSC（Highly Sensitive Child）への対応に関する学習会を行ったりしているとのことでした。そのような事業・市民団体とつながり、活用を図ることは、双方にとってメリットがあるのではないかと、との御意見をいただきました。

同御殿場市の根上委員からは、障害者福祉の視点から、部会によっては既に御殿場特別支援学校の担当が参加しているところもあるが、圏域の自立支援協議会から地域の情報を得ることができる、との情報提供をいただきました。

裾野市の天野安明委員からは、現状としては会社としてすぐに提供、活用していただける情報はないが、御殿場市と市民団体との連携による「おもちゃ病院」の取り組みなど、会社OBの方が様々な形で地域において活躍されている、とのお話がありました。

御殿場市の塩川委員からは、区内にも様々なスペシャリストがいると聞いており、今後、発掘し情報を得ることができれば、これを機会に把握し活用していただけるようにしていきたいとの展望を伺いました。加えて坂上委員より、地区のお囃子（太鼓）の会のご紹介があり、中学校からも生徒に体験させたいとの要望があり、そのような人材も活用できるのではないかと、との情報をいただきました。

本校中学部からは、総合的な学習の時間でSDG'sをテーマに食品ロスやリサイクルについて学習をしており、教えてくれる地域の方がいればご紹介いただきたいとの要望がありました。それに対し、坂上委員から、食品ロスについては市の栄養士、ゴミの分別についても担当者を派遣することができるとご紹介いただきました。最後に校長より、地域のそれぞれのコミュニティと学校が相互にかかわり合い、そのかかわりを広げていくことで、教育活動だけでなく地域活動もより豊かになる、という道筋がつけられたような思いがする、との皆様への御礼がありました。

○協議2「地域における障害のある方の活動やそれを支える取り組みについての情報共有」

まず、坂上委員と中村委員から各地区の防災訓練と中学校の防災学習の連携の取り組みについて紹介がありました。同学習をとおり、ジュニア防災士認定を目指す中学校の生徒が、地域の防災訓練で学んだことを発表する機会を設けるよう、各区長に依頼しているとの報告がありました。また、障害がある人の地区防災訓練への参加の意義について、この地区に障害のある人がいることを知ってもらい、被災時の対応について考える良い機会となる、との御意見をいただきました。



天野文子委員からは、小山町の文化協会が主催する「ふれあいひろば」の紹介がありました。多くの障害者施設が参加しているが、子どもたちの参加も多く、チラシの配付が有効ではないか、との御意見をいただきました。

鈴木委員からは、裾野市でも「ふれあいひろば」のイベントを催しており、多くの施設が出店、販売していること、多くは市の広報から情報を得ていること、地域の夏祭りなどは回覧板で情報が回ること、その紙面にお菓子がもらえるようなチケットがついていることで、子どもたちの参加が多いことなど、保護者の立場からも御意見をいただきました。

塩川委員からは、これまで被災時の高齢者への対応として、地区で名簿を作って把握するなどしてきたが、本日の協議を受け、障害のある人の避難時の対応などについても地区で話し合いの場を設けていきたい、とのお話がありました。

根上委員からは、障害のある人が地域に出ていくことや、地域で認めてもらうことが必要である、と障害者施設を運営する立場からお話しいただきました。また、地域で催されるイベントに参加している様々な団体の中にも、多くの協力者がいるのではないかと、との御意見をいただきました。

天野安明委員からは、以前は小学5年生を主な対象とし、「トヨタスクール」という製造現場と研究所の見学を提供していたが、工場がなくなったため、出前授業という形で継続している、とのご紹介がありました。また、現状、会社として地域と一緒にやる取り組みはなく、社員一人一人が地域の住民として活躍しており、地域のボランティア活動に会社として参加する、共に取り組む、ということであれば可能であるかもしれない、とのお話がありました。

○校長挨拶

本日の協議をとおり、今後は防災について改めて検討していく必要があるのではないかと、という課題意識をもった。以前、PTA会長と参加した他地域の研修会において、障害のある方のための、災害時の個別支援計画について話題提供があり、本地域においてその計画がないことについては以前から課題として認識はしていた。ちょうど御殿場市の危機管理課の中村委員にご参加いただいているため、この協議会を活用し、情報共有することで、小山町や裾野市での対応についても広がりをもたせることができるかもしれない、という思いをもった。次年度以降の課題として検討していきたい。

本日は地域の人材活用について、その具体的な方法や運用についての理解が深まる機会となり、皆様に深く感謝したい、との話がありました。